

[Hondaの交通安全情報紙]

# SJ

Since1971

SJ ホームページは

●編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内  
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1  
TEL 03 (5412) 1736 <http://www.honda.co.jp/safetyinfo/>  
●編集人：原田洋一

※ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。  
株式会社アストクリエイティブ  
安全運転普及本部係  
TEL 03 (5439) 1191  
E-mail: sj-mail@spirit.honda.co.jp



**Safety for Everyone**

Honda はすべての人の交通安全を願い活動しています。

この度の平成28年(2016年)熊本地震におきまして、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧をお祈りいたします。

2016

6・7

June・July

NO.478

**CONTENTS**

- P1 特集：交通安全普及活動の輪  
交通安全活動を通して、お客様、さらに地域社会との絆を深める
- P4 教育最前線 / Honda の新高齢歩行者プログラム
- P5 TOPICS ① / 第16回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会  
TOPICS ② / ナイスミドルのためのスマートライディングスクール
- P6 FRONT LINE / 安全教育研究所 所長・星忠通さん
- P7 危険予測トレーニング (KYT) / 雨天時の走行 (四輪車編)  
SJ クイズ  
指導者ファイル / 愛知県・豊橋市安全生活課交通安全教育指導担当者の皆さん
- P8 SAFETY FOCUS / 香川県高松市

特集  
**交通安全普及活動の輪**



Honda Cars 埼玉県央による「あやとりい ひよこ編」を活用した交通安全教室

# 交通安全活動を通して、お客様、さらに地域社会との絆を深める

また現在、四輪販売会社での人材育成とともに力を入れている取組みの1つが、来店した子どもや近隣にある幼稚園・保育園の園児に対するHondaの交通安全教育プログラム「あやとりいひよこ編(以下、あやとりい)」を活用した交通安全教室の展開である。実際にあったのは、四輪販売会社のスタッフが交通安全教室の指導者となれるように、安全運転普及本部が研修な

ることを実現するため、Hondaの四輪販売会社では、1994年にセーフティコーディネーター(以下、SC)という社内資格を導入。このSCが店頭での安全アドバイスの実施、安全ミニ講習会の開催など、お客様の安全を守る活動に取り組んでいる。SC資格を取得するための四輪販売会社のスタッフに対する安全研修がSC研修であり、Hondaはこれを各販売会社が必要に応じて自主開催できるように今年度から改定した。内容も、お客様と地域を守る活動を推進するために必要な安全意識を醸成できるものに見直されている。

これを強化している背景には、交通安全の普及拡大に向けた場と機会を創出し、手渡して安全を伝える活動をさらに充実させることで、より多くのお客様と地域の方々を守りたいという想いがある。

全国各地のHonda Cars(四輪販売会社)では店頭での安全アドバイスをはじめ、お客様との触れ合いを大切に手渡しの安全活動を実践している。さらに、販売拠点のある地域社会にも活動の輪を拡げるため、四輪販売会社を通じた活動の進化を図っている。今回は、四輪販売会社の交通安全活動とそこに込められた想いを伝え、お客様と地域のために安全を手渡して届ける四輪販売会社の活動を紹介します。



Honda自動車販売店協会 総務委員会委員長の田口忍さん (Honda Cars 埼玉県央・代表取締役社長)

「四輪販売会社のスタッフは、お客様にとって一番身近な『交通安全のプロ』でなくてはなりません。そうした意識を醸成することが、新しいSC研修によってやりやすくなったといえます。研修を通じて、ノウハウだけでなく、Hondaの安全思想や、どのような取組みを行ってきたかという根源的なことを理解しておくことは安全活動を進めるにあたって大切です。そのため、営業スタッフだけでなく、サービスやCA(カーライフアドバイザー)のスタッフにもSC研修を受けてもらう必要があると考えています。また、交通安全を地域に発信していくという取組みを活性化させるために、『あやとりい』による活動もさらに拡げていく予定です。お子さんへの教育内容

どを通じてサポートしている。こうした四輪販売会社によるお客様と地域の安全を守る活動の意義について、Honda自動車販売店協会総務委員会委員長の田口忍さん(Honda Cars 埼玉県央・代表取締役社長)は次のように話す。

※あやとりい=Hondaが三重県鈴鹿市と協力して開発した交通安全教育プログラム。幼児~小学校低学年対象の「あやとりい ひよこ編」、小学3~4年生対象の「あやとりい」、幼児~小学校高学年対象の「あやとりい 自転車教室」、高齢の歩行者・自転車利用者対象の「あやとりい 長寿編」がある。あやとりいは「あんぜんを やさしく とぎあかしりかいていただく」の略。詳細は以下ホームページを参照。  
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/ayatorii/>

特集  
交通安全普及  
活動の輪

交通安全活動を通して、お客様、さらに地域社会との絆を深める



写真上／交通安全教室の導入として使われる「あやとりい ひよこ編」の音当てクイズは子どもたちに好評

写真左下／道路を横断する前にまず止まることを子どもたちに身につけてもらう

写真右下／「県央レンジャーショー」は、悪者の不安全行動を正すという交通安全に関連した寸劇

Honda Cars  
埼玉県央  
の  
取組み

や伝え方を考えることも、スタッフ一人ひとりの意識を高めることに有効で、各社での継続的な取組みにつながるはずで、四輪販売会社もホンダの一員として、交通事故ゼロの実現に貢献していきたいと思っています。

ホンダカーズ埼玉県央（本社・埼玉県日高市）は、大型連休初日の4月29日に全5拠点で開催した「こどもの日フェア

ア」の中で「あやとりい」による交通安全教室を実施した。同社専務取締役の長谷川夕子さんは「あやとりい」を通じて、小さいお子さんに安全を伝えていくことは、たいへん重要だと考えました。まず、各拠点

にいるCA8名を集めて「あやとりい」の研修を受講してもらったところ、自分たちで1回やってみたいという声が上がってきました。そこで、CA2名が1組となり3月に3つの拠点で「あやとりい」を実施し、CA1名でもできるという手ごたえをつかんだので、「こどもの日フェア」として全拠点で実施することにしました」と振り返る。

販売拠点の1つ、高麗川店では、同店CAの樋口葉子さんが「あやとりい」交通安全教室を担当。はじめに音当てク



「キッズエンジニア体験」では子どもたちが展示車のタイヤを交換



イズからスタート。街で耳にする音を再生し、それが何かを子どもたちに答えてもらう。その後、樋口さんは信号機のある交差点が描かれたワークシートを見せ、「横断歩道を渡る前は必ず止まりましょう」と強調する。続いて、歩行者用信号機の色の意味を説明。「青信号でも、すぐに渡らず、止まって、左右、そして後ろからクルマが来ていないか確かめてください」とアドバイスを加える。

交通安全教室を終えたCAの樋口さんは「止まる」「まわりをよく観る」ということを印象に残すことを心がけました。「あやとりい」は音やイラストを使って説明でき、お子さんに関心を持ってもらいやすいので、一人でも多くのお子さんに交通安全を伝えられるように、活動を継続していきたいと話す。

「こどもの日フェア」では「あやとりい」のほかにも、「県央レンジャーショー」や「キッズエンジニア体験」など子どもが楽しめるよう工夫されていた。

「県央レンジャー」は埼玉の平和と交通安全を守るホンダカーズ埼玉県央のオリジナルキャラクターで、各拠点の代表者が演じている。シートベルトを着用しないで運転する、一時停止場所で止まらないといった悪者の不安全行動を正すという寸劇を披露した。

「キッズエンジニア体験」は、子どもたちがクルマの整備を担当するサービスタッフの仕事を経験するというもの。クルマに興味を持ってもらうと同時に、日常点検も安全運転に欠かせないことを

理解してもらおうねらいがある。高麗川店では空気が抜けているタイヤを見つけて出して、タイヤ交換作業に取り組んだ。子どもたちをサポートした同店サービスの藤井大樹さんと本田裕一さんは「お子さんが自分の手で工具や部品などを触る機会を多くつくることを意識しました。少しでもクルマや整備の仕事に興味を持ってもらえると思います」と話す。

ホンダカーズ埼玉県央では各拠点の入社2〜3年目のスタッフが「お客様と一緒に楽しむ」をコンセプトに、「あやとりい」の企画運営を任されている。「あやとりい」を取り入れたことがきっかけとなり、今回の「こどもの日フェア」も開催

「あやとりい」をきっかけに  
安全活動への理解が深まる



子どもたちが交通安全教室で身につける名札。各拠点のCAの手づくりで名札の下には守ってほしい「おやくそく」が書いてある



高麗川店ではHonda自転車シミュレーターの体験コーナーを設け、スタッフが交通安全指導を行った

「幼稚園でも交通安全教室があります。小さい子どもは一度では覚えきれません。交通安全について学べる機会があれば参加したいと思いました。指導を担当したスタッフの方も親しみやすく、幼稚園と同じ内容でも新鮮に感じました。信号が青になってから横断歩道を渡る前に、左右だけでなく、後ろも確認することがより安全であるということが、大人の私にも印象に残りました」（5歳、

今回の「あやとりい」交通安全教室は全拠点で子ども64名にご参加いただき、保護者からは次のような声が聞かれた。「こうした機会をお店がつくってくれれば、家族で気軽に参加できます。外を歩く時はまわりをよく観るなど、私たちも子どもに教えてはいますが、なぜそうする必要があるのかというところまでは説明できていませんでした。だから、こうした場で、子どもにわかりやすく説明してもらえて、ありがたいと感じています」（4歳、2歳の子とも参加した父親）。

「スタッフがその必要性を理解していないと、活動は長続きしません。CAだけでなく、全スタッフが『あやとりい』の存在を知ること、お客様とご家族に安全をどのようにお伝えすべきか見直す良い機会になったのではないのでしょうか。」



左からHonda Cars 埼玉県央 専務取締役の長谷川夕子さん、CAの樋口葉子さん、サービスの藤井大樹さん、本田裕一さん

特集  
交通安全普及  
活動の輪

交通安全活動を通して、お客様、さらに地域社会との絆を深める



Honda Cars 市川では船橋市や市川市の保育園にCAが出向いて「あやとりい」交通安全教室を実施

受講した保育園児への手づくりのプレゼント。「とまれ!みぎとひだりよくみてね」というメッセージが書かれている



他のCAと話し合

市)も「あやとりい」を活用して、地域

Honda Cars  
市川  
の  
取組み

「将来的には、保護者の方が商談をして...」

3歳の子どもと参加した母親... 「交通事故をなくすためには、クルマを運転するドライバーだけでなく、歩行者や自転車利用者も注意することが必要です。」



Honda Cars 市川 CAの古山友美さん(左)と高橋美奈さん(右)

の交通安全活動に取り組んでいる。同社では昨年11月に3名のCAを「あやとりい」の指導者として養成。そのCAが同社の販売拠点がある船橋市や市川市の保育園で交通安全教室を実施している。

いきました。また、「あやとりい」は私たちが一方的に話すのではなく、お子さんも参加できることが特長です。

スタッフの安全意識を醸成するための研修を実施



Honda Cars 市川 常務取締役の小暮振一さん

「あやとりい」による交通安全活動の推進について、同社常務取締役の小暮振一さんは「あやとりい」は当社の企業理念である「交通安全の啓発を通じて地域社会に貢献する」という部分に合致するものです。

「これまでのSC研修は、体験を通じて安全運転技術やクルマに搭載されている安全デバイスについて理解を深めることを中心とした内容でした。」

四輪販売会社を通じた交通安全活動の進化について、本田技研工業(株)日本本部販売部四輪業務室室長の中蘭憲一は

全スタッフによる  
「手渡しの安全」  
の実践をめざす

「と決意を新たに...」



Honda Cars 市川でのSC研修

進化させ、交通安全を通して地域に信頼される四輪販売会社をめざしている。



本田技研工業(株)日本本部販売部四輪業務室室長の中蘭憲一

「これまでのSC研修は、体験を通じて安全運転技術やクルマに搭載されている安全デバイスについて理解を深めることを中心とした内容でした。」

「これまでのSC研修は、体験を通じて安全運転技術やクルマに搭載されている安全デバイスについて理解を深めることを中心とした内容でした。」

● Hondaの新高齢歩行者プログラム

# 教育最前線

連載 40

## 高齢者に道路横断中の事故の特徴と安全な道路の渡り方を理解してもらう



(一財) 岡山県交通安全協会 水島交通安全協会シルバーセーフティサポーターの虫上陽子さんがHondaの新高齢歩行者教育プログラムを活用して高齢者140名に歩行中の事故防止のポイントを解説



Hondaは昨年11月、高齢歩行者向けの新たな教育プログラム「新高齢歩行者プログラム」(以下、プログラム)を開発した。このプログラムは、道路横断中の事故を防ぐための安全行動を高齢者に理解してもらうことを目的としており、Hondaは地域の交通安全指導者を通じて、その普及拡大を図っている。高齢歩行者においては道路横断中に事故に遭うケースが多いことから、映像を使って道路横断中における歩行者、ドライバーそれぞれの視点から似た疑似体験ができる内容を取り入れるなど、意識と行動のミスマッチを高齢者に気づいてもらえるようになっていくのが特徴である。

安全協会では、本田技研工業(株)安全運転普及本部鈴鹿普及ブロックからプログラムと指導ノウハウの提供を受け、今年1月より高齢者向けの交通安全教室に取り入れている。同協会シルバーセーフティサポーターの虫上陽子さんは「初めてプログラムを見た時に、豊富な映像や画像によって話だけでは伝えきれないことを上手く説明できると感じ、すぐに使ってみようと思いました。運転免許を持っていない方だけでなく、経験豊富な高齢ドライバーの皆さんにも充実した中身だと好評です。また、指導内容を与えられた時間に合わせて選択して組み合わせることができる点も使いやすさと感じています」とプログラムを評価する。

### 歩行者とドライバーの思い込みが事故を招く

6月7日、岡山県倉敷市の神倉学区コミュニティ協議会老人部主催の交通安全教室が開かれ、指導を担当する虫上さんはプログラムを使って集まった140名の高齢者に歩行中の事故防止のポイントを解説した。

まず、高齢者の交通事故の特徴について、クイズ形式で虫上さんが受講者に尋ねながら、道路横断中に左側から来るクルマとの接触が特徴であることを説明。さらに、そのような事故がなぜ多いのか、事故を再現したアニメーションを見せながら「安全確認が不十分

#### 高齢者の交通死亡事故の特徴について

##### 4. 横断の前半と後半、どちらが多いですか?

**横断前半** **横断後半**

クイズ形式で高齢者の死亡事故の特徴を導き出す

からクルマが接近する映像を再生。スクリーンに片側1車線の道路の左からクルマが接近する映像を再生。足踏みを始めると8秒後にスクリーンの奥から手前に向かってくるクルマとぶつかりそうになってしまった。虫上さんが合図を出した時、映像のクルマは約13.3m先にいて60km/hの速度で向かってくる設定で、8秒後には歩行者のところに到達することになる。75歳以上の平均歩行速度を1m/秒とすると、10mある片側1車線の道路を渡りきるのに

### クルマは自分が思っている以上に早く近づいている

分だった「クルマは来ないものと思っ込んでいた」という声が上がった。これをふまえて、歩行者とドライバーはお互いが見えていないのか、それぞれの目線からの事故にいたる再現映像を見せよう。歩行者は自分の右側から通過したクルマで左側から接近するクルマが見えなくなり、ドライバーはすれ違う対向車によって右側から横断しようとする歩行者が見えなくなる。虫上さんは歩行者とドライバーがお互いに死角に入ることで、双方が「いないはず」と、自分本位な思い込みや間違った判断をすることが、事故の原因として考えられると補足した。

#### 歩行者交通死亡事故事例

##### なぜこの事故は起こったのでしょうか?

**【原因を考えよう】**

横断後半に左側から来るクルマとぶつかる事故をアニメーションで示し、その原因を高齢者に考えてもらう

#### 道路横断中に潜む危険～歩行者目線～

#### 道路横断中に潜む危険～ドライバー目線～

歩行者とドライバーそれぞれの目線の映像で事故の過程を再現

この後は「視野編」と「夜間編」。「視野編」では加齢に伴って視野が狭くなっているのを、目だけを動かすのではなく、からだ全体を左右に振って自分のへそを確認する方向に向けるよう虫上さんがアドバイスした。また、「夜間編」では夜、単路を走行するクルマのドライバーレコーダーが記録した映像を流し、途中で道路を横断する歩行者を見つけてもらう。それを認識できた受講者はわずか1名だった。こうした映像を使って、夜間はドラ

### 夜間はドライバーが歩行者を発見しにくい



意識と行動のミスマッチに気づいてもらうための道路横断シミュレーション

10秒かかることになり、道路の中央を過ぎたあたりでぶつかってしまうのだ。虫上さんは、安全に渡るためには「クルマが近づいていないか確認する」「クルマが遠くに見えても横断せずに通り過ぎるまで待つ」「渡れると思っても横断を始めてもセンターラインの手前でクルマが近づいていないか、もう一度確認する」ことを強調した。



オリジナルの寸劇で反射材着用の効果を説明

最後に、「今から守ってほしいこと」として、  
①クルマが通り過ぎてすぐには渡らない  
②センターライン手前でもう一度確認  
③からだ全体(目とへそ)で安全確認  
④反射材を着用しよう  
をスクリーンに映し出す。この4項目を受講者全員で唱和して、約1時間にわたる交通安全教室は終了した。  
受講した70代の女性は「歩行者とドライバーの目線から事故を振り返る映像はわかりやすく、注意すべき点が理解できました。視野が狭くなっていると感じるので、からだ全体で確認することを心がけたい」と感想を語った。  
水島交通安全協会では高齢者を対象にした交通安全教室を年間約60回開催している。「今後もHondaのプログラムを拡げていきたい」と虫上さんはいふ。

#### 見える範囲のおとし穴

前の車を見たときは、後ろの車が見えなくなります

「視野編」では近くのクルマだけに注目してしまうと後続車を見落とす危険があることに気づいてもらう

TOPICS

# 01 ●第16回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会 大会史上初の快挙！ 女性が普通二輪部門総合優勝を果たす



今大会には27都府県82校から140名の選手が参加

6月2日、3日の両日、鈴鹿サーキット交通教育センター（三重県鈴鹿市）で「第16回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」（主催：本田技研工業（株）安全運転普及本部、後援：一般社団法人全日本指定自動車教習所協会連合会、本田技研工業（株）法人営業部）が開催された。同大会は、全国の自動車教習指導員の自己研鑽への動機づけや、他の教習所との交流の場を提供することを目的に2001年より毎

年開催されている。今大会には27都府県82校から140名の選手が参加し、各競技の審判として21校21名の教習指導員が協力した。選手は普通二輪部門、大型二輪部門、四輪部門に分かれ、運転技術の正確さやタイムを競う4種目の実技競技と、実技

指導力に取り組んだ。表彰式では大会運営委員長の原田洋一・本田技研工業（株）安全運転普及本部事務局長から入賞した選手にトロフィーが手渡された。また、普通二輪部門総合1位の新東京自動車教習所（東京都）・平田久美子さん、同2位の月の輪自動車教習所（滋賀県）・大治彰さん、大型二輪部門総合1位の月の輪自動車教習所（滋賀県）・宇野貴史さん、同2位のドリームモータースクール昭和

（長野県）・綿貫友洋さん、四輪部門総合1位のドリームモータースクール須坂（長野県）・小野寺雄哉さん、同2位のアヤハ水

口自動車教習所（滋賀県）・林勇樹さんには、全日本指定自動車教習所協会連合会会長賞も贈呈された。



普通二輪部門で総合優勝を果たした平田久美子さんは「一本橋」でも1位となった



普通二輪部門「コーススラローム」

安全運転知識や指導者としての気配り・思いやり等に関する記述やディスカッションを行う「実技指導力」



四輪部門「フィギア」



# 02 ●ナイスミドルのためのスマートライディングスクール スムーズで美しいライディングを 中高年ライダーに身につけてもらうために

Honda は昨年に引き続き、今年も6月より、モータージャーナリストとしてテレビや雑誌で活躍している元Honda ワークスライダーの宮城光さんを特別講師に招き、「ナイスミドルのためのスマートライディングスクール」を開催している。会場はHonda の交通教育センター。参加資格は40～60代で普通二輪免許または大型二輪免許を保有している

Honda 二輪車オーナーの方。中高年ライダーに安全に楽しく、バイクに乗り続けてもらうことを目的としている。スクールでは宮城さんの指導のもと、「ブレーキング」「マシンコントロール」「コーナリングブレーキ」「コーススラローム」など安全運転に必要な技術を学ぶことができる。※詳細は下記参照。



## ●ナイスミドルのためのスマートライディングスクール開催概要

●開催日	●会場
7月3日(日)	鈴鹿サーキット交通教育センター 三重県鈴鹿市稲生町 7992
9月19日(月・祝)	交通教育センターレインボー埼玉 埼玉県比企郡川島町出丸下郷 53-1
11月26日(土)	交通教育センターレインボー熊本 熊本県菊池郡大津町平川 1500

●開催事項	●内容
時間	9:00～16:00
定員	各回20名 ※参加定員を超えると参加できない場合もございます
参加費用	1万5000円(税込) ※昼食代込み(当日お弁当を用意)
必要装備	・ヘルメット、グローブ、ブーツ (スニーカーの場合はくるぶしが隠れるハイカットタイプが好ましい) ・長そで・長ズボンのライディングに適した服装
参加費用	免許に応じた車両を主催者が用意 ※AT車の準備はございません

## ●申込方法

- ①最寄りのHonda 二輪車正規取扱店にお越しいたき、参加申込用紙に必要事項をご記入ください。
- ②店頭にて参加費用をお支払いいただき、「支払い完了書兼申込書」を受け取ってください。
- ③開催当日、スクール会場に「支払い完了書兼申込書」をご持参ください。

※スクールの詳細はお近くのHonda 二輪車正規取扱店までお尋ねください。

## 第3回「Honda 交通安全 ポスター・動画コンテスト」開催!

### ●テーマ「みらいの安全な交通社会」

～人やクルマがこうなったら安心と思える  
ポスターや動画

7月1日から  
9月30日まで



人やクルマがこうなったら  
事故がもっと少なくなるかも!

昨年に引き続き、「いろいろな乗りものを運転する人や歩く人、またはクルマやバイク、自転車などがこうなったらもっと安全になるのでは?」ということを描いたポスターや動画を募集します! 明日の未来でも、100年後の未来像でも。自由な発想で描いてみてください。

応募期間: 2016年7月1日(金)～9月30日(金)  
(当日消印有効)

入賞作品発表: 2016年11月中旬、Honda ホームページで発表・掲載いたします

入賞作品: ポスターの部/動画の部それぞれ大賞 [1作品]/優秀賞 [2作品]/Honda賞 [1作品]

審査方法: Honda 社内において厳正なる選考を行い選出いたします

Honda 交通安全 コンテスト 検索

※コンテストのページ(詳細内容)は7月公開予定

# 地域において交通安全活動を進めていく上で、安全を文化として育てていくという視点が必要

## 「地域」は交通安全教育の重要な「場」である

安全教育研究所長の星忠通さんは1970年代から40年以上にわたり、その時代に合わせた地域における交通安全教育のあり方を提唱している。

交通安全教育においては「学校」「家庭」、そして「地域」が重要な「場」として位置づけられている。「地域」とは行政単位の住民の生活空間・交流がなされる小社会であると、星さんは定義する。地域での交通安全教育の意義や必要性についての理解が深まったのは1970年に交通安全基本法が制定された以降で、地域での交通安全教育の大きさがけたったのは、1970年代に全国の母親を中心に設置が進んだ「地域型幼児交通安全クラブ」であると、星さんはいう。

## 地域と住民を結びつけた子どもの交通安全

「当時、幼児の交通事故が増加しており、幼稚園・保育園の絶対数が少なかったという社会情勢の中で、『幼い命を守る』を合言葉に若い母親を中心に地域における交通安全活動が浸透していきました。中でも、山形県の『かもしかクラブ』、岐阜県の『ぞうさんクラブ』は今日まで続く地域の交通安全活動の源流となっています。このように、日本においては子どもの交通安全が交通安全活動と『地域』を結びつけたといっても過言ではありません。そうした歩みの中で、『学校』『家庭』『地域』の3者が協力・連携を保ちながら推進することの意義と重要性が叫



安全教育研究所 所長  
星忠通さん

ばれてきた。しかし星さんは近年、『学校』『家庭』『地域』のいずれも交通安全活動への関心が薄れてきているのではないかと危惧する。

「少子化に加え、交通事故死傷者数や発生件数が減少傾向にあることや、防犯・防災への注目が集まったことが、その要因といえるでしょう。地域を構成する住民の特性や意識も変化していますから、交通事故防止というだけでは共感を得られにくくなっています。しかし、交通安全活動が必要なくなったわけはありません。そこで、地域における交通安全教育も新たな視

点を加えていく必要があると考えています。それは、地域の中で交通安全を『文化』として位置づけるという視点。交通安全を含めて生活全般から安全とは何かを見つめ直し、『文化』にレベルアップさせることを意識して、教育や活動に取り組んでほしいのです。」

## 活動の「なかみ」「しくみ」「担い手」を見直す

地域の中で交通安全を「文化」として位置づけていくためには、交通安全活動の「なかみ」「しくみ」そして「担

い手」を見直し、住民の相互理解と協力を促進していくことが必要だと星さんは考える。

## 地域の民間企業が安全教育をリードしていくべき

「活動の『なかみ』については、年齢層ごとに設定するというより、子ども世代、保護者世代、高齢者世代、その地域に住む住民全員を対象にした教育内容を設定することです。世代間が一緒に考え、交流できる機会は地域でしかつくれません。例えば、各世代を縦割りにしたグループをつくり、グループ単位で目的の地をめざす。その過程で、歩行中の交通安全のポイントを確認していくといった実践・体験型の活動が考えられます。」

「しくみ」については、活動を推進する関連団体等の組織の役割を整理・統合するとともに、地域内や周辺の自動車関連企業・事業所の協力を模索していくことを勧める。「自動車関連企業・事業所は、他業種に比べ安全に力を入れています。地域の交通安全教育に、これを活かすべきです。」

活動の「担い手」として、星さんが注目しているのが団塊の世代の男性と大学生である。「団塊の世代は組織力の備わった企業で様々な経験を積み、退職後、地域に戻っています。社会的な視野が広がったこれらの方々の交通安全への参画を逃してはなりません。大学生は子ども世代には『お兄ちゃん、お姉ちゃん』、高齢者世代には『孫』という意味合いを持たせることができ、親しまれるので、指導者役には適任です。また、私は交通安全のボランティアリーダーの講習に携わっています。現在の交通安全は、こうしたボランティアの活動に支えられています。ですから、こうした方々が意欲的に活動を継続できるようにしていくことも

大切です。ボランティアですから金銭的な対価は支払えません。そこで、国が統一の帽子やジャンパーといった制服をつくって配付すればいいと思はれます。制服を着用することで、一般住民に指導をする際、相手に理解してもらいやすいという効果があるからです。」

## 高齢者の安全・安心な移動を確保するために

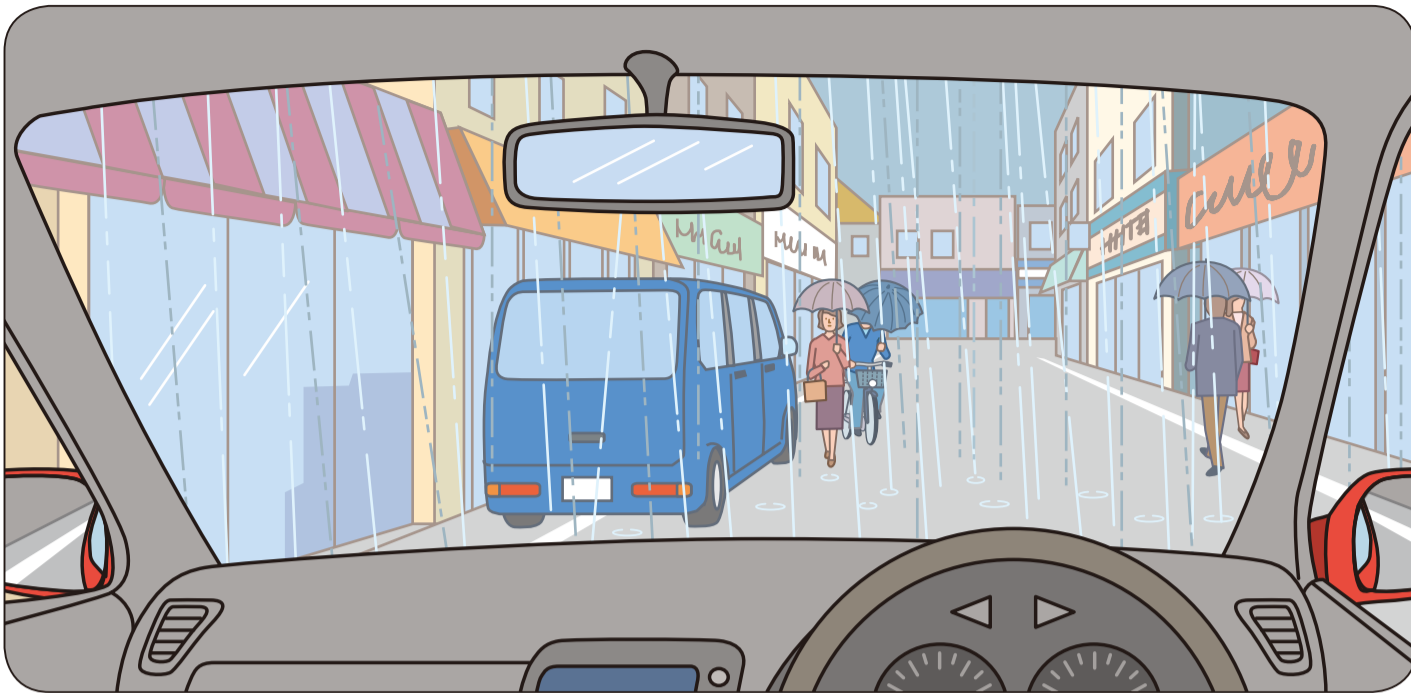
地域においては、独居高齢者や高齢夫婦世帯の増加により、こうした高齢者の安全・安心を確保するための活動も求められている。この点について、星さんは高齢運転者が加害者となる事故をいかに防いでいくかも重要であると指摘する。

「この問題は高齢者に運転免許を返納してもらって、クルマに乗せなければいいという単純なことでは解決できません。都市部以外で暮らす独居高齢者や高齢夫婦世帯にとって、買い物や病院に行くためにクルマはなくてはならないものです。免許返納に対する様々な特典を設けている地域もありますが、残念ながらそうした特典では高齢者の移動を補いきれないのも事実です。例えば、イギリスでは郵便集配車が高齢者や障がい者を乗せて、集落と地方都市との間を走っています。『ポストバス』という郵便集配と住民輸送を1台のバスで同時に提供する交通サービスです。このような新たな移動の方法を実現するために、地域と民間企業が協力して国にはたらきかけていくべきではないでしょうか。」

星さんは、交通安全は過去の話ではなく、これからの課題として、地域で真剣に取り組んでいくことが求められているという。「地域住民と地域内で活動している民間企業が協力しながら、安全を文化として地域に根づかせてほしいと思います。」

危険予測トレーニング (KYT) — 危険感受性を育てる

第51回 雨天時の走行 (四輪車編)



交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は四輪車のドライバーに、雨天時の走行の危険について考えてもらうためのKYTです。

活用方法

1. 少人数のグループをつくります。
2. 「交通場面のイラスト」を見せながら、意見を出し合います。
3. その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつけて運転すれば良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト (カラー・A4版)」は下記SJホームページでご覧いただけます。またPDFファイルもダウンロード (無料) できます。

ホンダ SJ 検索

【使用上の注意】

- 営利目的での利用はおやめください。
- 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
- その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

本田技研工業 (株) 安全運転普及本部  
TEL: 03(5412) 1736 E-mail: sj-mail@spirit.honda.co.jp

© 本田技研工業 (株)

あなたは雨の日に商店街を走っています。歩行者が左側に止まっている駐車車両の脇を通り抜けて向かってきます。

安全に通過するには、どのようなことを予測する必要がありますか？

Q1

酒酔い運転の運転者への罰則として正しいものは次のうちどれでしょう？

- ① 5年以下の懲役又は100万円以下の罰金
- ② 5年以下の懲役又は50万円以下の罰金
- ③ 3年以下の懲役又は50万円以下の罰金

Q2

酒気帯び運転の基準となる呼気1ℓ中のアルコール濃度は次のうちどれでしょう？

- ① 0.10mg 以上
- ② 0.15mg 以上
- ③ 0.25mg 以上

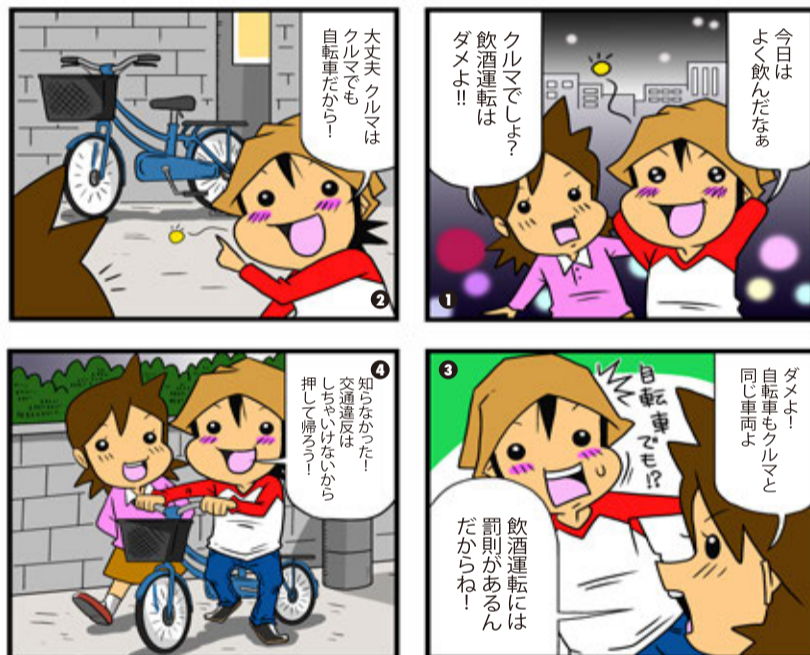
Q3

飲酒運転の死亡事故率 (平成27年) は「飲酒なし」の何倍でしょう？

- ① 約3.8倍
- ② 約5.8倍
- ③ 約7.8倍

※「解答」は8面下、「解説」は下記SJホームページでご覧いただけます。  
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>

漫画: 塚本ケースケ



SJ クイズ ?

© 本田技研工業 (株)

指導者ファイル

このコーナーでは、地域で活躍する交通安全教育に携わる指導者の方々を紹介していきます。

32

愛知県・豊橋市安全生活課 交通安全教育指導担当者の皆さん

交通安全教育指導者の近田弘一さん (写真中央) と山田真理代さん (写真右)、交通安全教育指導員の野口彩さん (写真左)

自分で考えて安全行動をとれるようにするための実技指導

豊橋市は愛知県の東部に位置する人口約38万人の都市である。同市では安全生活課に所属する交通安全教育指導者の皆さんが中心となって、幼児から高齢者まで、交通安全教室を年間約350回実施している。

小学校においては、1年生を対象に新入学児童交通安全教室、3年生を中心に自転車安全指導巡回教室などを行っている。新入学児童交通安全教室は、基本的な交通ルールを説明した後、学校周辺の道路を児童と一緒に歩きながら指導を行うというもの。自転車安全指導巡回教室は、校庭に模擬の車道や交差点、横断歩道をつくり、指定したコースを児童一人ひとりが自転車に乗って走るという内容だ (右記参照)。交通安全教育指導者の山田さんは「実技



を通じて、子どもたちが普段も自分で考えて安全確認などができるようにすることをめざしています」と話す。

豊橋市では52の小学校区に1名ずつ児童の登下校を見守る交通安全指導員を配置している。実技が伴う教室では、交通安全指導員もサポートに加わる。教室終了後は、各人が気づいた点を学校側へ伝えていく。「児童はもちろん、他の先生や保護者の方々にも内容を伝えてもらっています。校内や家庭でも交通安全教育を継続してほしいと思います」と、山田さんはいう。

また今年4月より、豊橋市は自転車用ヘルメットの普及のため、市が開催する自転車交通安全教室に参加した人にはヘルメット購入金額の半分 (上限2000円) を補助している。

● 豊橋市立二川南小学校での自転車安全指導巡回教室



自転車安全指導巡回教室には他の小学校区での交通安全指導員も協力。模擬コース内の7カ所のチェックポイントに交通安全指導員が立ち、児童にアドバイスをを行う

一時停止場所や見通しの悪い交差点では、必ず止まってから左右を確認するようにアドバイス



実技の前に、自転車には左側から乗ること、停止する時は左足をつくことなどイラストを使って解説



自転車を発進させる時は左足を地面につけ、右足をペダルを置いて右後方を確認することを徹底

歩行者のいる横断歩道では自転車を降り、押して歩いてもらう



教室の最後に、交通事故に遭遇してしまった時の対応を説明。身体に異常を感じなくても、その場から立ち去らないで、まわりの人に声をかけて助けてもらうように伝えている

指導者の皆さんの活動を動画でご紹介

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/area/movie/>

安全な道路環境をめざして—14—  
**SAFETY FOCUS**

# 見通しがよく速度が出やすい交差点

「SAFETY FOCUS」は、Honda が公開している「SAFETY MAP」に示される交通上の危険が潜むスポットに足を運び、現場の交通環境と事故防止について考察する連載記事です。

「SAFETY MAP」には「みんなの意見」として一般投稿された危険スポット情報が地図上に表示されている。今回「FOCUS エリア」(上記参照)に取り上げるのは、香川県内で5の方が「みんなの意見」を投稿している「春日町片田 (以下、片田)」交差点だ。ここでは、スピードが出ているクルマが多いなどの投稿が寄せられている。また、この場所では、平成 27 年中に四輪車対四輪車の事故が 9 件、四輪車対二輪車の事故が 1 件、四輪車対自転車の事故が 1 件発生している。

●この地点で発生した事故件数

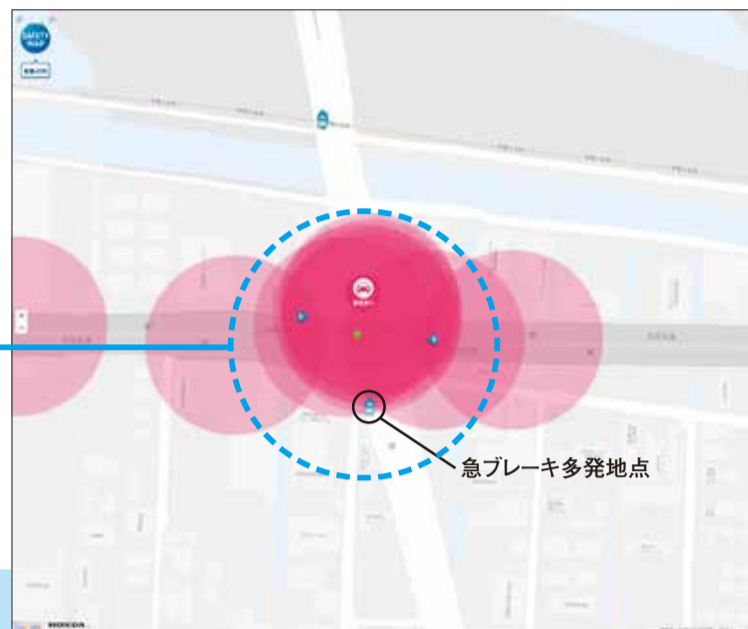
四輪車対四輪車	右折直進	1 件
	追突	7 件
	その他	1 件
四輪車対二輪車	左折時	1 件
四輪車対自転車	右折直進	1 件

※平成 27 年中 香川県警提供

●「SAFETY MAP」みんなの意見

スピードが出ているクルマが多い	2 人
歩行者 / 自転車の飛出しが多い	1 人
赤信号無視のクルマが多い	2 人

※平成 28 年 5 月 31 日時点



## 現場をたずねる

FOCUS エリア  
香川県高松市「春日町片田」交差点

今回訪れた「片田」交差点は JR 高松駅から東へ 5km、高松市内を東西に抜ける志度街道 (国道 11 号) と南北の県道 10 号が交わる場所。交差点の南側には、2 本の生活道路 (地図上 E と F) が接続している。

現場を訪れた平日朝 7 時は交通量が多く、ピーク時間帯である 8 時台になると通勤者のクルマや資材などを積んだ大型トラックが絶え間なく行き交っていたほか、高松駅方面に向かうバイクも多く見られた。バイクの台数が多いことを反映してか、各道路にはバイクとクルマそれぞれ専用の停止線 (二段停止線) が設けられていた。自転車利用者の大半は高松駅方面に向かっていった。

E と F は、主要道路に比べれば通行量はかなり少ない。しかし、道路幅が狭くないため、E から出ていくクルマと入っていくクルマがすれ違う際、ドライバーは慎重な運転を心がけているようだった。

「片田」交差点は見通しがよく、視界を妨げる建造物がない。交差点の通過スピードは高く、黄色信号を急加速で通過するクルマがしばしば見られた。一方で、A から B に左折するクルマが横断歩道手前で一時停止すると、クルマの一部が道路に残るため、後続車両が交差点直前で車線変更したり、左折待ち車両で車列ができることがあった。



「片田」交差点にはすべての方向に二段停止線が設置されている



1 対向車がいいため右折を開始した大型トラックは、後から進入してきた自転車に気づき急ブレーキをかけた



2 赤信号になってから交差点を横断する自転車



3 通行量のピークを迎えた 8 時台前半、交差点前の路側帯では多くのバイクが一列に並んで信号が変わるのを待つ

## より安全なタイミングで交差点に進入すべき

E から「片田」交差点に向かうクルマは、三木方面への交通の流れが途切れるタイミングを見計らって D の横断歩道手前にあるスペースに停車し、国道 11 号の信号が赤になるまで待つケースが多かった。この際、右折ウィンカーを点けて進行するクルマは少なかった。

危険と感じたのは、D の横断歩道を通過して交差点内に進入し、国道 11 号を高松駅方面へそのまま走行するクルマが見られたことだ。なかには E から国道 11 号を通行するクルマに合流するような感覚で、右折ウィンカーを出しながら進行するクルマもあった。朝の通勤時間帯はスピードを出しているクルマも多いので、国道 11 号の信号が赤になってから交差点内に進入するほうが安全だと思われた。

E から出たクルマは道路を横切り、歩行者信号が青の横断歩道を通過し、そのまま高松駅方面に向かって走行していた



## 交差点進入時の安全をより確保するために

「片田」交差点には二段停止線が設置されている。8 時頃は多くのバイクが国道 11 号を高松方面に走っていたが、そのほとんどのバイクは路側帯に縦一列で止まっていた。停止線で止まった先頭のバイクの後方にバイク 2 台が停車すると、それ以降のバイクは二輪用の停止線まで進むことができない。そのため、二輪用と四輪用の停止線の間がぼろぼろ空いた状態になっていた。

この二輪用の停止線があるため、交差点を左折するクルマにとっては曲がった先にある横断歩道まで距離が長くなり速度が出やくなる環境だと思われた。気づかぬうちに高いスピードで交差点に進入して前方に歩行者や自転車がいた場合、大きな事故につながりかねない。二段停止線のあり方を見直してもいいのではないだろうか。

香川県警察では今後、二輪および軽車両の安全確保に配慮しながら、さらなる安全対策を検討していく考えだ。

「SAFETY MAP」のご活用・ご参加をお願いします!

ホンダ セーフティマップ

検索

<http://www.honda.co.jp/safetymap/>

「SAFETY MAP」は「みんなで作る安全マップ」です。Honda のインターナビが集めた日本中を走るクルマの急ブレーキ情報と、交通事故情報、そして皆さんの声で地図はつくられます。お手持ちの PC・スマートフォンからアクセスできますので、あなたの周囲に危険と感じることのある場所があったら、情報を投稿してください。